もくじ

・ 秘密の花園（ひみつ はなぞの）

秘密の花園（ひみつ はなぞの）

原作（げんさく）： フランシス・ホジソン・バーネット

イラスト： 若林（わかばやし） 奏子（かなこ）

編集（へんしゅう）： YellowBirdProject

3

クレブンの屋敷は、メアリーが住んでいた家よりはるかに大きく、生垣に囲まれた、広い庭もありました。メアリーが、クレブンの部屋に通されると、クレブンは暖炉の前の椅子に腰掛けて、本を読んでいました。

「あの・・初めまして」

メアリーがちょこんとお辞儀をすると、クレブンは本を閉じて、椅子から立ち上がりました。少し背中を丸め、足が悪いのか、杖を使っていました。

「・・君がメアリーか。よくきたね。長旅で疲れたろう」

「いいえ。大丈夫です」

「今日からここが君の家だ。向こうでは色々あったと思うが、ここでゆっくりと、心と体を休めなさい。私は家を空けることが多い。早速明日から、しばらく外国へいって留守にする。なにかあったら、召使のマーサに聞きなさい」

5

「・・ああ、それともう一つ。この屋敷の部屋は自由に使って構わないが、カギのかかっている場所にだけは、入ってはいかんぞ」

「わかりました」

メアリーは、両親を病気で亡くし、お金持ちだったクレブンおじさんの家に引き取られることになったのです。

翌朝、メアリーが自分の部屋で目を覚ますと、召使の若い女性が、暖炉の前にかがんで、火を起こそうとしていました。

「おはよう。あなたがマーサ？」

「おはようございます、お嬢様。早く起きて、朝食をとってください。お着替えはクローゼットの中にありますから」

「お着替えを手伝ってくれないの？」